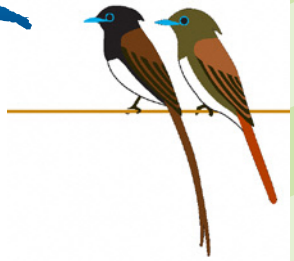
静岡県立静岡がんセンター
地域医療連携だより

VOL.4
2020年
7月

やまびこ



病院長あいさつ

静岡県立静岡がんセンター　病院長
上坂　克彦

本年4月から、高橋前院長の後を継いで病院長を務めています上坂です。どうぞよろしくお願いします。

今年はどの施設も、Covid-19対策にご苦労なさっていることと思います。感染第一波は5月末に一定の落ち着きを見せましたが、今後第二波、第三波の襲来も予想されています。

静岡がんセンターは、「Covid-19蔓延期においても高度がん医療機関としての機能を落とすことなく継続する」ことを目標とし、徹底的な感染対策を行ってきました。病院玄関にAIサーモグラフィーを配置し来館者全員の体温をチェックするほか、全外来患者のリスク評価を行い、リスクに応じて診察スペースのゾーニングを行っています。職員の感染対策も重視し、必要なPPE用品の確保には格段の努力を払っています。こうした対策によって、幸い院内へのウイルスの侵入を阻止することができ、これまでのペースを落とすことなくがん医療を提供しています。

さて、静岡がんセンターは、本年4月に、わが国では12番目のがんゲノム医療中核拠点病院の指定を受けました。大学病院本院以外では、国立がん研究センター中央病院、同東病院に次いで3番目の指定です。これまでも、がんゲノム医療拠点病院としてエキスパートパネルや遺伝カウンセリングを実施してきました。今年度からは、中核拠点病院となりましたので、県内のがんゲノム医療連携病院との連携を進め、遺伝カウンセリングの支援、治験や臨床試験の推進、人材の育成等に取り組んでまいります。

Social distancing、三密の排除、移動の自粛などが求められ、face-to-faceの連携が難しい時代です。しかし、こんな時代だからこそ英知を結集し、新しい時代の医療を切り開いていかねばなりません。静岡がんセンターは、今後も感染対策を厳格に行いつつ、積極的な情報発信、高度がん医療の提供の継続に力を注ぎ、未来志向の医療を展開してまいります。今後とも、地域の皆様の温かいご支援・ご指導をお願いいたします。

5月～6月は静岡がんセンターの
庭園のバラが満開です。

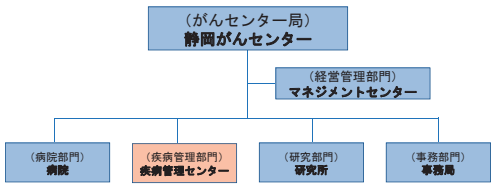
もくじ CONTENTS

病院長あいさつ…… P1
疾病管理センターの紹介…… P2
診療科の紹介…… P3
しずがん院内アート探訪…… P4
地域連携室からのお知らせ…… P4

部署紹介コーナー

疾病管理センター

疾病管理センターというネーミングはあまり耳慣れないかもしれませんが、静岡がんセンターの「疾病管理センター」は3つの機能・役割を持った部門からなっています。がん診療連携拠点病院の相談支援センターとしての「よろず相談」、患者・家族への情報提供をつかさどる「健康教育・研修」、そして静岡県のがん対策事業や専門職研修などを担う「がん総合対策」があります。静岡がんセンターのがん医療や県の施策を、広く県民や他機関につなげるための、いわば“ハブ”のような機能を果たしています。組織上は病院・事務局・研究所と並立の独立した組織として、センター長（医師）のもと総勢18名の精鋭部隊が日々奮闘しています。



静岡がんセンターの組織図

静岡がんセンターは県立病院として、県のがん対策推進計画を実現するためのけん引役という役割をもっています。疾病管理センターは県庁駐在職員と協働して、がん診療連携協議会や各部会（緩和医療部会、支持療法部会、相談支援部会、AYA小児部会）の運営をサポートしています。また開院以来、病院を利用する患者・家族のみならず、がんによる悩みや負担をもつあらゆる方々の相談に対応し、患者図書館やオリジナルの小冊子できめ細やかな情報提供を行うスタイルは、全国の相談支援センターのモデルにもなっています。いまやがんセンターに“なくてはならない存在”という自負を持ち、患者・家族そして職員の皆様が笑顔になるよう、日々頑張っています。

【よろず相談】

よろず相談はワンストップの相談窓口の機能を持ち、受診に関することやがんの告知後、治療に取り組む中で生じる様々な悩みや不安について、当院の受診歴の有無を問わず、患者・家族・一般市民などあらゆる立場の方から電話・対面での相談を受けています。相談内容により院内の適した職種に繋ぐこともあります。また、治療と仕事の両立支援や学校との連携を通して、がんになっても安心して生活できる地域づくりに取り組んでいます。

＜スタッフ＞
ＭＳＷ　7名
看護師　1名
事務職員　1名

よろず相談窓口・相談室

よろず相談では、窓口での対応の他、5つの相談室を設え、さまざまな相談に対応しています。

【がん総合対策】

静岡がんセンターでは、静岡県のがん対策推進計画に基づく「がん総合対策」を進めていて、がん予防・がんの早期発見の知識の普及啓発に努めています。

① 小学生用の喫煙防止下敷き等の健康教育教材の作成・配布
② 保健師等のがん検診の精度管理研修会の開催
③ がん会議や看護師や歯科衛生士等の医療者向けの研修会の開催等

研修会の日程は、がんセンターホームページに掲載しておりますので、是非ご参加下さい。

＜スタッフ＞
保健師　1名
事務職　3名

【健康教育・研修】

患者さんとご家族の学びの支援を行っています。主な仕事は、患者さんとご家族を対象とした勉強会の開催、患者図書館・患者サロンの運営と管理、情報コンテンツの作成などです。情報コンテンツの形態は、主に冊子やビデオ、ホームページになります。ここを担当するようになって、17年目です。看護師でありながらビデオの編集ができるようになりました。

＜スタッフ＞
看護師　1名
図書館司書　2名
事務　2名

あすなろ図書館

約10,000冊の蔵書、1,200のビデオ・DVDなどを揃え、治療中の患者さんの生活支援の情報やグッズも展示しています。また、様々な冊子を作成し展示するとともに、全国の病院等に配布し、HPからダウンロードもできるようになっています。

患者サロン「やまなみ」

患者さん同士あるいは医療者を含めた交流の場です。
サロンでは定期的に「漢方療法」「乳がん術後の下着の選び方」「お口の健康シリーズ」などの勉強会を開催しています。

～ 診療科の紹介 ～

胃外科 （部長　坂東悦郎）

胃外科では胃および食道胃接合部に発生するがんと粘膜下腫瘍の手術療法を担当しています。胃がんは日本人に最も罹患数の高いがんの一つで、当科も週 8-10 件の手術を担当させていただいています。胃がんの手術療法は、20 世紀中は開腹手術のみでしたが、今世紀に入り患者さんの負担の少ない腹腔鏡手術、近年は最先端のロボット支援手術 (ダ・ヴィンチ) が導入され、がんを上手に治す理念の下、当科の手術も 6-7 割が低侵襲手術となってきています。高度な技術が要求されますが内視鏡外科学会の技術認定取得医も３名在籍しており、拡大手術から縮小手術まであらゆる手術に対応可能です。また成長と進化を継続する理念の下、新規治療開発のため多くの研究・臨床試験を行っています。

地域医療機関のみなさまへのメッセージ

我々は手術療法を担当していますが、内視鏡科、消化器内科、緩和医療科と密に連携しており、より早期のがんは内視鏡科に、手術不能の患者さんは消化器内科・緩和医療科にそれぞれ紹介し、個々の患者さんに最適な治療を提供しています。また患者さんと家族を徹底的に支援する理念の下、栄養室、歯科口腔外科、リハビリ科とも密に連携して、食事指導、嚥下リハビリテーションを中心に指導し早期社会生活復帰のサポートができるよう心がけています。診断困難の患者さんも含めましてお気軽にご相談ください。

肝胆膵外科 （部長　杉浦禎一）

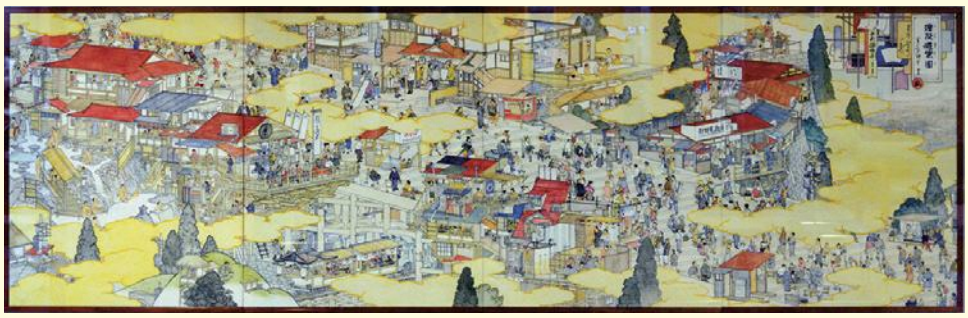
肝胆膵外科では、肝臓、膵臓、胆道に発生する癌の治療を担当しています。肝胆膵領域は体の奥深くにあり臓器と血管が複雑に密集しているなどの特徴があるため、高度な専門的知識と技術が要求されます。当科では多くの肝胆膵領域のがんを扱っており、毎年 200 件近くの肝切除術、150 件前後の膵切除術（膵頭十二指腸切除術、膵体尾部切除術、膵全摘術、など）、その他の手術も含め 400 件を超す肝胆膵腫瘍の手術を行っています。また、肝胆膵外科は、画像診断科、ＩＶＲ科、消化器内科、放射線・陽子線治療センターとともに"肝胆膵グループ"を構成しています。肝胆膵グループは、毎週行われるカンファレンスで患者さん一人一人の画像を検討し、病気の状態の診断と最適な治療方針を総合的に決定しています。

地域医療機関のみなさまへのメッセージ

原発性肝癌や転移性肝腫瘍、低悪性度膵腫瘍などでは通常の開腹術より侵襲の少ない腹腔鏡下手術を行い、根治性とともに患者さんのQOLの向上に努めています。また、切除不能と判断された高度進行肝胆膵領域癌に対しては広範囲肝切除+門脈・肝動脈合併切除再建術、肝膵同時切除術（肝・膵頭十二指腸切除術）など極めて難しい手術も多く行っています。セカンドオピニオン外来も積極的に行っていますので、お気軽にご相談ください。

しずがん 院内アート探訪

このコーナーでは静岡がんセンターの院内アート作品をご案内してまいります。
第一回目は、病院2階受付付近にある絵画をご紹介します。



一部拡大してみました。
虫めがねで見ると
楽しいですよ！

『階段游楽圖』　山口　晃　作（平成14年4月3日寄贈）

長大な階段が組み上げられ、そのわきには大小さまざまの建物があります。
食べ物屋、湯屋、見せ物などなど。
人はそこで食べ、飲み、かつ唱い、飽いてはそぞろ歩き、時にはメランコリィを楽しみます。それにしても此の階段はどこから来てどこへ行くものなのでしょう。

＜作者紹介＞

1969年東京都生まれ。2001年に岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞を受賞。2013年に『ヘンな日本美術史』で第12回小林秀雄賞を受賞。大和絵や浮世絵のようなタッチで、非常に緻密に人物や建築物などを描き込む画風で知られる。武士を馬型のバイクに乗せたり、現代の超高層ビルに瓦屋根を載せて描くなど、作品の多くが自由でユーモラスな発想で描かれている。書籍の装丁や広告のポスターの原画も数多く手掛け、成田空港の出発ロビーなどにパブリックアートとして作品が設置されている。2012年に平等院にある養林庵書院に襖絵が奉納された。2019年のNHK大河ドラマ「いだてん ～東京オリムピック噺～」のオープニングタイトルバック画を担当する。

地域医療連携室よりお知らせ

【研修情報】

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、当院主催の研修会や交流会の開催のご案内が遅れております。状況を見つつ、Web配信などによる方法も併せて検討中です。詳細はホームページ等にて順次ご案内をさせていただきます。

静岡がんセンターホームページ　https://www.scchr.jp

編集後記

右を見ても左を見ても、職場でも自宅でも、新型コロナウイルス一色の日々が長く続いています。緊急事態宣言は解除されたとはいえ、第二波・三波が心配され、医療・介護にかかわる皆さんは緊張とご苦労の連続だと思います。そんな中、静岡がんセンターのいくつかの部署に、こっそりこんなものが貼られていました。アマビエ様…。科学の先端を行くべき医療機関でも、「神頼み」が時には心を癒すということでしょう。ちなみにこのアマビエ様、当院病棟看護師長の小熊由美画伯の作品です。

発　行　静岡県立静岡がんセンター　患者家族支援センター　地域医療連携室
〒411-8777　駿東郡長泉町下長窪1007　TEL　055-989-5222（代）
発行責任者　地域医療連携室長　林　さとみ